



2017年度 観光カリスマ講座



南海「和歌山大学前」駅から和歌山バスで約4分
南海「和歌山市」駅から和歌山バスで約20分
JR「和歌山」駅から和歌山バスで約30分

会場：和歌山大学 観光学部棟 T101教室
〒640-8510 和歌山市栄谷930

キャンパスマップはこちら →



定員：社会人 80名、観光学部学生 40名
講習料：無料

※4回以上の講座に出席いただいた方には、修了証書を交付いたします。



申込み・問合せ先：和歌山大学 観光学部 観光実践教育サポートオフィス
(電話) 073-457-8581/8553 (FAX) 073-457-8553
(E-mail) t-renkei@center.wakayama-u.ac.jp
(HP) <http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/>

■主催
国立大学法人
和歌山大学観光学部
和歌山県

■後援
公益社団法人和歌山県観光連盟



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

2017年度

観光カリスマ講座

本講座は、各方面で活躍する「観光カリスマ」や成功モデルと評価されている観光地・観光ビジネスのキーパーソンを招聘します。観光カリスマのユニークな着眼点やリーダーシップを発揮しての事業の推進、異業種を巻き込んでのコンセンサスの形成方法等の実践事例を拝聴するなかで、和歌山県を始めとする地域の観光振興とまちづくり再生の方向性を探ります。

会場／和歌山大学 観光学部棟 T101教室 受付開始／17:30～

第1回 観光産業が基幹産業になるには

10月26日(木) 18:00～19:30 観光庁 参事官(産業政策担当) くろす たく 黒 須 卓

訪日外国人旅行者が増加し、国全体を挙げて観光立国を目指す中、観光産業が基幹産業になることを目指して、その革新を図っていくことが求められている。

果たして、その処方箋はあるのだろうか。今回は、8月にとりまとめられた「観光産業革新検討会」の報告書を元に、今後、観光産業としてどのような取り組みが必要かについて、講義を行う。

第2回 旅の魅力を伝える「地球の歩き方」の提案力

11月9日(木) 18:00～19:30 元「地球の歩き方」編集長 いしたに かすなり 石 谷 一 成

ガイドブックとしてではなく、海外自由旅行の提案「歩こう、地球」キャンペーンから始まった「地球の歩き方」。今や海外旅行といえば「地球の歩き方」と言われるまでになりました。現在では、「島シリーズ」「御朱印シリーズ」などの国内版も充実し、発行タイトル数は300を超えます。

ガイドブックとしてのスタートではなかったのに、なぜここまでの媒体に成長したのか？ 作り手の情熱が詰まった情報とは何か、「旅の紹介」ではなく「旅の提案」が生み出す力とは何かを中心に、「地球の歩き方」の歴史を追いながら、旅先や旅そのものの魅力をどう伝えるかについてご紹介します。

第3回 観光と映画の関係 ～観光における映像の存在～

11月30日(木) 18:00～19:30 株式会社クリエイターズユニオン 代表取締役 たなか みつとし 田 中 光 敏

地方からの映画発信やインバウンド映像など、観光事業推進の有力な手段として映像が使われることが多い今、私はその真っ只中で映画やインバウンド映像、CMを製作しています。今、観光事業において何が主役となりえるのか？ 影響力のある映画や、目をひくCM、インバウンド映像を作れば、それが果たして観光としての主役になっていくのであろうか？ 観光における主役は映像？ それとも「……」

僕自身が観光事業の現場で感じる映像の役割と、過剰なまでに映像に期待する昨今の状況を交えながら、観光と映像の関係について、映像をご覧いただきながら、皆さんと一緒に考えたいと思っています。

第4回 文化資源の利活用法

12月14日(木) 18:00～19:30 アルパック(株)地域計画建築研究所 み わ ひろし 名誉会長 三 輪 泰 司

都市計画・地域計画のプランナーで、老舗温泉旅館のあるじでもあります。観光ビジネスの構造はどうなっているのでしょうか。観光ビジネスの「商品」とは何でしょうか。そもそも、観光行動のモチベーションとは何でしょうか。地域づくりでは、関西文化学術研究都市や、京都駅ビル改築の計画をやってきました。これらを買くモノとコトがあったのです。

観光を担う2大ビジネスは、鉄道・運輸事業とホテル・旅館事業。それらを結ぶ事業もあります。それらを買っている商品が「文化」だったのです。地域にある文化資源です。

文化資源にはハードとソフトがあります。実際に城崎温泉の老舗旅館を舞台に、何のために、どのような文化資源を、どのように活用しているか。聞いて、何を勉強したらよいか、お役にたてれば、幸いです。

第5回 南信州での体験型観光の取り組み

1月11日(木) 18:00～19:30 株式会社南信州観光公社 代表取締役 たかはし まこと 高 橋 充

1995年から飯田市が取り組み始めた体験教育旅行誘致事業を引き継ぎ、体験型観光を飯田市だけではなく、下伊那郡全域に広域展開させて、受入拡大と地域振興の推進、地域連携システムの構築につなげてきた経緯や基本的な考え方について、実践事例を元に説明する。今後の展開や課題など、地域観光のあり方についても触れる。